

ふくしま青年海外協力隊の会

今年度、当会が主催/協力/参加した数々の事業
イベントをOVのエッセイから振り返ります。

NEWS 2021-2022

01 会長挨拶

「未来の扉開くもの 日本を築くもの
誇りを胸にいざ行かん ～「若い力」より



地球体験キャラバン in いわき

コロナウイルスの感染拡大から既に2年が経過しましたが、いまだ終息が見えておらず、まだまだこの闘いは継続しそうな状況です。

私にとっての2年目もこの闘いのうちにありました。そんな中でも、「自分に何かできることはないか」と集まり、知恵を出し合い、安心安全を確保するための工夫をし、活動して下さった会員の皆様、支えて下さった皆様のお陰で、様々な活動ができましたこと、感謝致します。苦しみながらも生み出した活動は1つ1つが愛おしく、参加された方々、関わって下さった会員の皆様の笑顔が、懐かしく思い出されます。本当に有難うございました。

コロナ禍が始まった当初は、コロナが終息すれば、元の社会に戻るという声もありましたが、今やそんな事を言う人は少なくなってきているのではないのでしょうか。変化の連鎖は止まることなく、もうコロナ前の社会に戻ることは想定しづらい状況です。

これからは With コロナ、New Normal (新しい生活様式) をつくっていくことになるかと思いますが、当会としても、「自分に何かできることはないか」という熱い思いを胸に活動していければと思います。

皆様、どうぞ宜しくお願い致します。

中山 澄子 (H12-1 パラオ 小学校教諭)

02 エッセイコンテスト 2021/10/2 郡山男女共同参画センター

本名 愛 (16-2、ベリーズ、医療機器)

エッセイコンテスト審査会 (中学生の部) を10月2日 (土)、郡山市男女共同参画センターにて実施致しました。審査員は、OV15名、待機隊員1名、計16名でした。参加者による自己紹介がとても印象的でした。久しぶりにお会いするOVには懐かしさを覚え、また様々な隊次の方々から現在の様子を伺うことができました。



審査会の様子

審査した作品は、昨年度より200作品ほど増え、748作品でした。コロナ禍ゆえ、子供たちは、自由な行動が制限されるという苦しい状況でした。その中で、身の回りや世界へと目を向け、抱える課題を考察し、書き綴られていました。これからは生きる子供たちの真っすぐな思考を知ることができました。結果は、学校賞が3校と個人では、佳作2名、JICA二本松所長賞1名が選出されています。多くの皆様に審査員として参加頂いて、様々な作品に触れていただければと思います。

Contents

- 01 会長挨拶
- 02 エッセイコンテスト
- 03 協力隊まつり2021
- 04 からふるカフェ
- 05 結・ゆい・フェスタ
- 06 地球体験キャラバン
- 07 FOCA 研修会

発行：ふくしま
青年海外協力隊の会
発行日：2022/5/1
編集：金山忍
(H21-4 タイ 陶磁器)
FOCAの最新情報掲載中！
HP：<http://foca.jocv.net>

Facebook

www.facebook.com/fukushimaJOCV

Instagram

https://www.instagram.com/fukushima_jocv/

03 協力隊まつり 2021 “いろんな未来が見えてくる”



水谷 恭二 (S56-1 マラウィ 森林経営)

2021年4月24,25日の週末、コロナ禍のためにオンライン開催となった「協力隊まつり」に参加しました。従来、JICA 広尾そして市ヶ谷で主に国別、職種別そして首都圏のOV会が集まり、将来協力隊に行ってみようかという方々に敷居を下げていただく機会でもあった長年の行事が初のオンライン開催となったのです。おりしも、東日本大震災から10年、「福島応援ツアー」で復興の様子を見に来て欲しいけど、コロナ禍ではとためらっていたため、好機到来と考えました。

2日間の出展時間をほぼ使って多彩な番組を企画、配信し、のべ計141人の方に来室・視聴いただきました。(まつり全体の集計は2,909人)10年間への感謝をこめて制作した「ありがとう動画」を配信したときには、参加された青森OV会と旧交を温めるひとときもありました。準備そして発信いただいたみなさん、本当におつかれさまでした。

04 からふるカフェ



多文化共生推進団体助成金(福島市国際交流協会)申請事業

福島市内の個人経営のカフェ・喫茶店を会場に、各国の茶菓子を味わい、協力隊経験者の話を聴いて、異文化に触れ、知り、学ぶことによって、参加者が異文化体験・多文化共生体験をし、積極的に関わり、担うきっかけとすることを目的とした事業。共催団体のEIWAN(福島移住女性支援ネットワーク)様からは外国籍の方とかかわることに関する情報、さらに日本語を教えることに関する学び等を行う。

第1回 フィジー編 2021/10/24 福島市たまごカフェ

後藤祥与 (H26-1 フィジー 栄養士)

参加者：水谷恭二、宍戸なつ美 (H2-1 ルワンダ 婦人子供服)
内田恭男 (H2-2 タンザニア 造園)

コロナ禍で試行錯誤のなか、第1回からふるカフェはフィジーをテーマに開催されました。福島市在住のフィジー人ご家族もゲスト参加し、参加した皆さんにフィジーの事を知ってもらいながら、絶品ローカル料理を楽しんでもらう事ができました。共催でEIWANの大島先生から、市内在住外国人の状況や日本語ボランティアの運営についてお話していただき、地域の外国人との関わりに関心を持っていただく良い機会になりました。スケジュールがフィジータイムになってしまいましたが、水谷さんを始め、ご協力いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。

協力隊まつりオンラインプログラム 4月24日(土) (ふくしま青年海外協力隊の会)

10:00~11:00	震災からの福島の教育の現場 担当:坂中 参加:高橋
11:30~12:00	ありがとうビデオ 震災からのFOCA活動 ふりかえり 担当:小熊
12:00~13:00	福島 座談会
12:00~14:00	NTC 避難所へのボランティア 候補生の被災地支援活動 担当:水谷
13:00~14:00	帰宅困難地区の現状 担当:川崎
14:00~15:00	震災時の外国人支援 担当:幕田
15:00~16:00	震災後の福島(会津)での農業 担当:村山/齊藤
16:00~17:00	震災からの保育現場 担当:高橋

4月25日(日)

10:00~11:00	九州から福島に移住して 相双地域の現状 担当:星 参加:高橋
11:00~11:30	ありがとうビデオ 震災からのFOCA活動 ふりかえり 担当:小熊 参加:高橋
11:30~12:00	予備 空白
12:00~13:00	福島 座談会
13:00~14:00	帰宅困難地区の現状 担当:川崎
14:00~15:00	NTC 避難所へのボランティア 候補生の被災地支援活動 担当:水谷/星
15:00~16:00	空白 予備
16:00~16:30	ありがとうビデオ
16:30~	震災からのFOCA活動 ふりかえり 担当:小熊



フィジー人ご家族からの紹介



ココナツミルクを使ったフィジー料理

からふるカフェ 第2回 ブータン編 福島市くつろぎ納屋 森のキッチン 2021/11/26



津川智明 (S52-2 マラウィ 道路設計)

参加者：水谷恭二、穴戸なつ美

会場の「森のキッチン」は古い納屋を改造して造られたレストラン。参加者は10人くらい。オーナーの森口秀貴さんの協力を得てとても良い雰囲気で行うことができた。ブータンの国情や国民総幸福(GNH)について紹介した。参加者にブータン風お茶とケワダチ（ジャガイモとチーズの煮込み）もふるまわれ、ブータンを味わっていただけたのではないかなと思う。



ブータンについて話している様子



ヨルダンの紹介の様子

今回はまん延防止措置のために延期となったヨルダン（長沼 OV）、モンゴル（大槻 OV）の紹介が同時に開催されました。元ルワンダ隊員穴戸 OV のお店を会場に、参加者8人中3人が外国人という多国籍な回でした。参加者は、ヨルダンのファラフェルとハーブティーを味わいながら異文化交流を楽しまれました。福島移住女性支援ネットワーク（EIWAN）様の日本語教授法を体験することもでき、「とても楽しい時間でした」と好評でした。

からふるカフェ 第3回 ヨルダン・モンゴル編 福島市みなふく食堂（青少年会館内）2022/3/18

大槻美佳 (H28-1 モンゴル 作業療法士)

参加者：長沼舞子、水谷恭二、穴戸なつ美



モンゴルの紹介の様子

05 結・ゆい・フェスタ in 福島駅前通りツイン広場およびいちい街なか店 2021/10/24

長沼舞子 (H28-3 ヨルダン 音楽)

参加者：水谷恭二、中山澄子、高橋司 (H17-2 メキシコ 青少年活動)
佐藤悠一 (H18-4 キューバ 自動車整備) 内田恭男
大槻美佳 (H28-1 モンゴル 作業療法士) 後藤祥与



ファラフェルのかき氷販売

秋深まる10月末日、8月に中止となった「結・ゆい・フェスタ 2021」が開催されました。



任国や協力隊の活動の紹介

今年のFOCAは二手に分かれ、ツイン広場のブースでは、珍しいシロップのかき氷とアラブの伝統的国民食ファラフェル（ひよこ豆のコロッケ）を手作り販売し瞬く間に完売。もう一方のいちい街なか店内のJICA二本松展示スペースにおけるFOCAの展示では、JICAボランティアに興味のある訪問者をはじめ多くの方々に活動を紹介するなど、盛況を博しました。

06 地球体験キャラバン

in 小名浜東第二児童クラブ 2021/11/6

鈴木洋二 (S55-3 ケニア 理科教師)

参加者：中山澄子、水谷恭二、平出将孝 (H29-2 東ティモール 手工芸)



バルーンキャッチ

約2年ぶりの地球キャラバンの開催となりました。国旗や地図、そしてバルーン等の装飾で雰囲気づくり。今回、約40年前に協力隊に参加した私が話をできるのだろうかと不安でしたが、子供たちの生き生きした姿に救われました。

また、「5人のうち外国人は？」の質問に本気だったと思うのですが、素直に「3～4人」と答える子供たちを見て、私にとっては新たな発見であり、小学生を対象にした時の準備のしかたの参考になりました。お陰で、久々にスワヒリ語を勉強しなおそうかと思いました。(三日坊主になるのは見えています……)

in 桑折町中央公民館 2021/12/5

後藤祥与 (H26-1 フィジー 栄養士)

コロナ禍の影響でOV1人に国際交流員2人での実施開催となりました。対象はボーイスカウトの4～6年生14名。チームビルディングは少し恥ずかしそうにしていたのですが、○×クイズの頃にはとても盛り上がり、世界の様々な事を知り、民芸品に触れながら、楽しんでいました。



クイズの正解解説

初参加で一人内心不安でしたが、とても勉強になり楽しむことができました。会長や他会員に何度も進め方を確認しながら、何とか無事に実施することができ、感謝申し上げます。



参加者の皆さんと

in 鏡石町公民館 2021/12/11

村田 瑞歩 (H24-1 ブータン 栄養士)

参加者：樋水秀樹 (2019-2 ザンビア 野菜栽培)

ゲスト：池田OV、樋水OV、湯田OV、李さん、ウインズさん



参加者の皆さんと

アドベンチャークラブの10名を対象に実施



民芸品や写真を使って紹介

参加者は、バルーンゲームや三択クイズを通して、日本と外国の文化を比較したり、ゲストとの交流を深めたりしました。また、民芸品にふれたり、写真や動画をみたりして、目を輝かせていました。最後に「今まで知らなかったことが知れて、楽しかった！」等の感想をいただきました。

in 福島市三河台学習センター 2022/2/27

鈴木 光飛斗 (H27-2 モザンビーク 体育)

県北の地球体験キャラバンもコロナの影響を大きく受けました。国見町は中止、福島市は延期後にオンラインと対面式のハイブリッド開催となり、開催そのものや、スタッフの確保について、賛否分かれる判断が困難な状況が続きました。コロナ禍におけるキャラバンの実施の難しさを実感した一年ではありましたが、参加された子ども達を見て、世界の文化や考え方に触れる機会作りは、本当に大切であることを改めて感じています。



ZOOMで会場とハイブリッド開催

簡単ではありますが、開催にあたりご協力いただきました皆様へ心から感謝を申し上げますと共に、世界視点の教育機会創出のため、今後ともぜひご協力のほどよろしくお願いします。

07 FOCA 研修会「多文化共生推進の先行事例に学ぶ」二本松市男女共生センター 2022/3/26

水谷 恭二 (S56-1 マラウイ 森林経営)

講師：新潟県青年海外協力協会 渡部 悟会長 (H4-2 ミクロネシア) 工藤知子 (S62-3 マラウイ)
来場者：12人 オンライン5人 (Foca会員のみならず山形県OV会長、東京からも)

ひさしぶりの研修会でした。コロナ禍がなかなか落ち着かず、機会をうかがっていましたが、年度末ぎりぎりの3月26日、ようやく開催できました。工藤さんはベーカーリーのみならず、障がい者、引きこもり支援、外国人雇用、国際理解の出前講座を実施されており、カフェを「協力隊ナビ」の会場としても提供されています。「地域の人々に愛されるパン屋になる」を企業理念とし、SDGsにも取り組む中、これまでの経験、失敗を率直に語られ、「持続可能な社会」への第一歩は「住みたいところで、自分らしく生きられるよう応援する企業でありたい」と締めくくられました。



ゲストと参加者の皆さん

渡部さんは、新潟OV会の概要と新潟NGOネットワークに加入して、実施しているNGO団体との協働イベントや写真展、帰国後報告会、協力隊ナビなど最近の活動の他、「つなぐつながる」へのヒントも紹介いただきました。「外国人も日本人も共にハッピーな町づくり」には、途上国で「共に暮らし、共に働いた」経験を持つ帰国隊員の「社会還元」がもっともっと期待されている気がします。追記：講師らは翌日、双葉町の伝承館を見学してお帰りになりました。講演は動画に収録しました。追って限定公開しますのでご覧ください。なお、JICA二本松から経費半額約3万円を補助いただきました。ちなみにパン屋の名前「ナミテテ」は彼女の任地の地名です。